

## ■□要旨■□

**1. 大塚製薬での経験**

出身の大塚製薬でMR、人事、総務を経験されてきた。

現在の会社での仕事においても、大塚製薬の企業理念である「世界の人々の健康に役立つ」「創造的」という考え方が仕事の上で脈々と受け継がれている。

**2. 本質を知ること**

大塚製薬の現社長は、自社で最も売れている薬である、統合失調症の薬を担当する際に、実際の患者さんの生活を知ることを目的に2週間ほど入院をして一緒に生活をした。

戸田社長自らも、患者さんの気持ちになって自社製品を利用してみることで、本質を知ることができた。本質を知る、考えるということとはとても重要で、現在扱っている経腸栄養剤や濃厚流動食、特に摂食回復支援食などは、患者さんのニーズをしっかり理解することに繋がっている。

**3. 人事の経験を生かして**

イーエヌ大塚は、2社の複雑な歴史を経て出来た会社ということもあって、プロパー社員の役員登用が今はまだされていない。然しながら、社員のモチベーションを上げるにはやはり生え抜き役員が出来ることが一番であるし、自分の社長時代に試みたい。

**4. 企業は地域との関係も大事**

東日本大震災を経験した東北に本拠地を置く会社として、地域との繋がりはこれまで以上に重要視している。企業は、まずはその地域の方々と上手く共存していかなければならない。

## ■□今回の学び ひとことという■□

経営トップに就くということは、組織のあり方、人事面、地域との関係、本業たる売上、それを見越した先行投資の判断と決断など、様々な案件に対して取り組むエネルギーと断行力が必要であるということ。また、会社は社員なしには成り立たない、外から社長、役員を置くことは簡単だけれど、会社が本当の意味で大きく成長するには、やはりプロパー社員のモチベーションを上げるためにも生え抜き役員を生むことが大切。

戸田社長の強みは、バランスの良さと何より、製薬会社でMR、人事を経験されてきたという人に対する優しさが根底にあることだと思いました。



## ■□感想■□

一人単身岩手にいかれ、出身の大塚の100%会社ではないことからのご苦勞は数え切れないものだと思います。特に赴任される直前の震災経験は計り知れません。

戸田社長が地域に根ざす会社として情熱を注がれているのには、この経験が大きな要因になったのではないのでしょうか。会社・製品が向き合う先の方、従業員、社会・地域の方々、そうした方々への配慮、優しさを持つことは 経営者に必要な要素・本質として大切であることを感じました。